



五月 (大) 皇月

●朔 朔月のこと、新月を指す

五月五日立夏の節より  
月命辛巳八白土星の月  
暗剣殺東北方

旧五四月月小小

31日	30日	29日	28日	27日	26日	25日	24日	23日	22日	21日	20日	19日	18日	17日	16日	15日		
土 かのえ ね	金 つらのど み	木 つらのえ、ぬ	水 ひのと とり	火 ひのえ さる	月 きあとひじ	日 みづのと み	土 みづのえたつ	金 みづのえたつ	木 かのと う	水 かのえ どら	火 つらのどうし	月 つらのえね	日 ひのと み九紫	土 ひのえ いぬ	金 ひのと 七赤	木 きのえ さる	水 六白	
四緑	三碧	三碧	三碧	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑	一粒万倍日	●下弦	○下弦	○下弦	○下弦	冲縄本土復帰記念日、京都葵祭、伊豆下田黒船祭(18日迄)		
旧端午、世界禁煙デー、不成就日	旧端午、世界禁煙デー、不成就日	横浜善光寺身代り不動明王祭	横浜善光寺身代り不動明王祭	●朔	二時〇二分、小田原道了尊大祭	相馬野馬追大祭(26日迄)、天一天上、	神戸湊川神社楠公祭(26日迄)	東京上野五條天神祭、東京湯島天祖祭、鶴岡化けもの祭、天しや、不成就日	相馬野馬追大祭(26日迄)、天一天上、	神戸湊川神社楠公祭(26日迄)	東京上野五條天神祭、東京湯島天祖祭、鶴岡化けもの祭、天しや、不成就日	●	酒田まつり、福井三国祭	真宗本派親鸞聖人誕生会	奈良唐招提寺団扇まき	奈良唐招提寺団扇まき	奈良唐招提寺団扇まき	奈良唐招提寺団扇まき
五	四	三	二	朔	廿九	廿八	廿七	廿六	廿五	廿四	廿三	廿二	廿一	廿	十九	十八		
先負 友引	先勝 赤口	大安	友引	先勝	赤口	先勝	大安	佛滅	佛滅	先負	友引	先勝	赤口	大安	佛滅	先負		
あやぶ やぶる	と る	さ だん	とい ら	み つ	の ぞく	た つ	と づ	ひ らく	お さん	な る	あ やぶ	や ぶる	と る	さ だん	とい ら	あ やぶ		
氐	亢	角	軫	翼	張	星	柳	鬼	井	參	觜	畢	昴	胃	婁	神		
月 く く	名 め 日	角	十 し	神 よ し	太 な う	よ し づ	●	大 な う	神 よ し	母 倉	き 二	五 む 日	五 む 日	十 し	神 よ し			
4.27 18.51	4.27 18.50	4.28 18.49	4.28 18.49	4.29 18.48	4.29 18.47	4.30 18.47	4.30 18.46	4.31 18.45	4.31 18.44	4.32 18.43	4.33 18.42	4.34 18.41	4.35 18.40	4.36 18.39				
8.15 23.00	7.04 22.20	5.55 21.30	4.52 20.28	3.59 19.16	3.15 17.58	2.39 16.40	2.07 15.25	1.39 14.13	1.12 13.04	0.44 11.56	0.14 10.49	— 9.42	— 8.36	— 7.34	— 6.36			
6.28 21.01	5.47 20.15	5.08 19.29	4.31 18.47	3.54 17.52	3.17 17.02	2.41 16.08	2.05 15.09	1.27 14.00	0.44 12.37	10.49 —	8.57 —	7.37 23.51	6.57 22.49	6.17 21.44	5.47 20.46			
1.24 13.57	0.42 13.10	0.03 12.24	11.39 —	10.54 23.17	10.11 22.33	9.29 21.46	8.47 20.57	8.04 20.07	7.14 18.58	5.59 17.41	4.06 16.18	2.44 15.08	1.52 14.14	1.13 13.30	0.39 12.52			
わ そ う とい う 日 で 、 母 へ の 感 謝 の 気 持 を 表 す る	國民の祝日としては、児童福祉の日となつてゐる。第二日曜日は「母の日」。五日は「こどもの日」。より施行される。	四日は「みどりの日」。平成十七年祝日法の改定により決定した。平成十九年から施行された「日本国憲法」の実施記念の祝いである。	第二次世界大戦終了後、それまでの帝国憲法に代わつて、昭和二十二年五月三日昭和二十一年に復活して今日に至つてゐる。三日は「憲法記念日」。日本は大正九年に第一回集会を、昭和二十一年に第三回集会を、昭和二十一年に中止、昭和二十一年に復活して今も農繁期の人手ほしさの風習であったのだろう。	農家の手は計算すみで初春に嫁姻し、できれば婚約者の手もあてにした、足入れ婚などの言葉が残つていたの	お祭りである「メーデー」は、昭和十三年に中止、昭和二十一年に復活して今も農繁期の人手ほしさの風習であったのだろう。	【祭】五月一日は労働者の国際的なもので、わが国では大正九年に第一回集会を、昭和二十一年に第三回集会を、昭和二十一年に中止、昭和二十一年に復活して今も農繁期の人手ほしさの風習であったのだろう。	【婚】昔は、この時期に礼をすることは少なかつた。農家の手においてはなおのこと、嫁の手は計算すみで初春に嫁姻し、できれば婚約者の手もあてにした、足入れ婚などの言葉が残つていたの											

五月 (大) 隅月 肴宿													
月命辛巳八日土星の月 暗剣殺東北方													
日	曜日	干	支	九星	行	事	四	五	六	七	八		
14 日	13 日	12 日	11 日	10 日	9 日	8 日	7 日	6 日	5 日	4 日	3 日	2 日	1 日
水 みづのとひじ	火 みづのえまき	月 みづのえまき	土 みづのえまき	金 みづのえまき	木 みづのえまき	水 みづのえまき	木 みづのえまき	火 みづのえまき	月 みづのえまき	日 みづのえまき	土 みづのえまき	金 みづのえまき	木 みづのえまき
五黄	四绿	三碧	二黑	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四绿	三碧	二黑	一白
出雲大社例祭 ○望一時五六分	看護の日	長良川鵜飼開き、一粒万倍日 母の日、東京下谷神社祭、京都松尾大社還幸祭、	愛鳥週間、大垣祭、笠間稻荷御田植祭、	一粒万倍日 母の日、東京下谷神社祭、京都松尾大社還幸祭、	世界赤十字デー	小つち、不成就日	振替休日、三陸亡	豊川稲荷春季大祭、七尾青柏祭 府中くらやみ祭、神奈川国府祭	○みどりの日、立夏 こともの日、立夏 四時五十分、端午、	憲法記念日、熱海身代り不動尊五臟病院、 京都伏見稻荷還幸祭、博多どんたく(4日迄)	奈良東大寺聖武祭、下関海峡祭(4日迄)、 飛驒水無神社例祭	大つち、三躰亡、不成就日 四月小	
十七 友引 みつ のぞく 壁 くゑ 日	十六 先勝 のぞく 室 神上 し	十五 赤口 たつ 危 ●	十四 大安 とづ 虚 天おん	十三 佛滅 ひらく 女 夏	十二 先負 おさん 牛 事	十一 友引 なる 斗 母	九 赤口 やぶる 箕 大	八 大安 とる 尾 倉	七 佛滅 とる 心 月とく	六 先負 さだん 房 神よし	五 友引 たいら 亢 大なやう	四 旧暦 六輝 中段 共宿 下段 日出入 月出入 満潮 干潮	
4.37 18.38	4.38 18.37	4.39 18.37	4.39 18.36	4.40 18.35	4.41 18.34	4.42 18.33	4.43 18.33	4.44 18.32	4.45 18.31	4.46 18.30	4.47 18.29	4.48 18.28	
20.26 5.02	19.26 4.25	18.25 3.55	17.25 3.28	16.27 3.05	15.30 2.42	14.34 2.20	13.37 1.57	12.38 1.32	11.36 1.03	10.31 0.27	9.23 23.43	8.15 22.49	
4.52 18.40	4.27 18.05	4.02 17.30	3.38 16.54	3.14 16.17	2.49 15.36	2.23 14.51	1.53 13.54	1.12 12.27	0.06 9.31	7.43 22.33	7.01 21.22	6.28 20.20	
11.47 —	11.17 23.37	10.49 23.06	10.20 22.33	9.52 21.58	9.23 21.21	8.53 20.39	8.20 19.51	7.35 18.50	5.27 17.33	3.05 16.11	2.03 15.01	1.22 14.05	
代 や ち ま き で と 考 え	菓子は柏餅(かしわもち) いちばんを飾る。供える うちまきで、ともに戦国時 代の携帯食糧の伝統と考え	このことである。 このことである。 このことである。 このことである。 このことである。 このことである。 このことである。 このことである。 このことである。 このことである。 このことである。 このことである。 このことである。	「冠」五月五日の祝日は、 「こともの日」、端午の節句 である。三月三日の女子の 節句に対し、この日は男子 の節句に対し、この日は、桃 の雛飾りに匹敵するものと して屋外に鯉のぼり、屋内 では武者人形や鎧兜(よろ いかぶと)を飾る。供える	五月は「臘月」、さつき、 つづじが繚乱の季節である。 新緑の季節とも薰風の季節 ともいい、快適な月といつ てよい。この月のうち、か らりと晴れた日を「さつき 晴れ」といい、爽快の代名 詞として使われている。 立春から数えて八十八日 目ごろは茶摘み過ぎである。 「八十八夜の別れ茶」の言葉 どおり、この日から後に霜 の降りることはめったにな ることである。	五月は「臘月」、さつき、 つづじが繚乱の季節である。 新緑の季節とも薰風の季節 ともいい、快適な月といつ てよい。この月のうち、か らりと晴れた日を「さつき 晴れ」といい、爽快の代名 詞として使われている。 立春から数えて八十八日 目ごろは茶摘み過ぎである。 「八十八夜の別れ茶」の言葉 どおり、この日から後に霜 の降りることはめったにな ることである。								

○五月の行事

○上弦　＝上弦の月を指す